

農林機械・建機一貫生産 3ブランドで

株式会社やまびこ(東京都青梅市)



盛岡事業所 & 農業機械本部



(左から) 女鹿上席執行役員盛岡事業所長、林取締役執行役員農業機械本部長、坂井盛岡事業所管理部長

今回は山林の下草を刈る刈払機、立木を伐採するチェーンソー、剪定用バリカンのヘッジトリマー、落ち葉やごみを吹き飛ばすパワーブロワなど、軽量小型の手持ち屋外作業機械の世界的メーカー「株式会社やまびこ」を取材した。永尾慶昭社長。☎0428-32-6111。〒198-8760 東京都青梅市末広町一丁目7-2。国内シェアナンバーワンの「小型屋外作業機械」に加えて、防除作業機として果樹園に用いられるスピードスプレーヤ、同じく水田や畑作に用いられる乗用管理機などの「農業用管理機械」と発電機、溶接機などでおなじみの「一般産業用機械」の事業分野で3つのブランド製品を販売。特に、チェーンソー、刈払機などは世界90か国以上で使用されている。やまびこの取り組みを紹介する。

★設立の経緯★

やまびこの前身は、昭和22年(1947年)に創業した共立農機株式会社(東京都杉並区、後の株式会社共立)と、昭和27年(1952年)に創業した浅本精機製作所(広島市、後の新ダイワ工業株式会社)。戦後の食糧難の時代、共立は病虫害防除用の薬剤を散布する「手動散粉機」を自社開発し米や麦の食糧増産に貢献した。新ダイワ工業は海苔しぼり機や海苔乾燥機、電動チェーンソーの商品化を手がけたことで

知られる。

その後、両社はいずれも刈払機、チェーンソー、パワーブロワなど小型屋外作業機械を主力事業として競合していたが、市場環境の変化を受け、両社は米国排出ガス4次規制への技術的対応や新興国企業の廉価攻勢への対策など同じ課題を抱えていた。課題解決に向け、両社は経営統合を決めたという。

両社は平成19年(2007年)5月に業務・資本提携基本契約を締結した。基本契約に基づき、平成20年(2008年)12月に共同持株会社、株式会社やまびこを設立した。共立、新ダイワ工業はやまびこの完全子会社となった。さらに、平成21年(2009年)10月、やまびこが共立と新ダイワを吸収合併して新会社「株式会社やまびこ」を設立した。共立、新ダイワ工業のブランドは承継している。

社名は「山彦」に由来。山林育成のための機械器具メーカーとして山の神様に事業の発展を誓い、自然環境の育成と整備に貢献するというグループの理念を象徴している。その理念は「エッセンス」「存在意義」「行動指針」の3点。そのうち、存在意義として「世界最高の製品とサービスを提供し続けること」「自然と環境の明日を担う人と企業に貢献すること」「業界のリーダーとして顧客を創造し業界の成長を牽引すること」「やまびこにつながる全ての人々を幸せにすること」の4点を社会の中で担う



盛岡事業所の製品の組み立てライン



製品の組み立て作業

役割と責任に揭げている。

★3ブランドを展開★

やまびこは3つの製品ブランドを持つ。大型のスピードスプレーヤ、乗用管理機など農林業機械の国内ブランド「共立：KIORITZ」。チェーンソー、パワーブロワなど小型の屋外作業機械の国際ブランド「エコー：ECHO」。ヘッジトリマー、防塵カッターなど小型の屋外作業機械と発電機、溶接機、投光機など一般産業用機械の製品ラインナップを持つ「新ダイワ：SHINDAIWA」である。



自走式のスピードスプレーヤ

やまびこは低騒音・低NOx・低振動を念頭に開発した農林業機械、造園機械、一般産業機械について、開発から設計、生産、販売、アフターサービスまで、自社のグループ・ネットワークを活かして一貫通貫で実施している。これは、同社の強みであり最大の特長である。今後は3つのブランド力とグループ・ネットワークを一層強化・活用して製品を積極的に売り込んでいく。平成28年度（2016年度）は売上高1,100億円を目指すとしている。

★生産・販売拠点★

国内では、盛岡事業所／農業機械本部（滝沢市）、本社／中央センター（青梅市）、横須賀事業所（横須賀市）、広島事業所／産業機械本部（広島県北広島町）、大塚オフィス／電子制御研究所（広島市安佐南区）の5地区に企業活動の拠点を置く。その他、樹脂製部品の射出成形工場（双伸工業(株)）、電装部品製造（追浜工業(株)）など関連会社6社を5地



果樹園で農薬の散布作業中

区に、また、国内販売会社7社を7地区に開設している。一方、海外では、2つの事務所をベルギー、タイの2か国に置く。生産・販売会社10社をアメリカ、カナダ、ベルギー、中国、ベトナム、台湾の6か国・地域に開設している。

そのうち、今回視察した盛岡事業所は昭和42年（1967年）8月設立。共立は昭和32年（1957年）、りんご園用スピードスプレーヤの生産を三鷹工場を開始した。相次ぐ増産に対応するため産地に近い盛岡市郊外へ専用工場の建設を決めた。現在はスピードスプレーヤ、刈払機、チェーンソーなど大型から小型までの農林業機械とエンジン部品の製造を取り扱う。最新鋭の倉庫棟（やまびこロジスティックス(株)）と社員食堂も完備した先進的な生産拠点。平成15年（2003年）には長野工場／大型機器本部を統合した。平成25年（2013年）には累計エンジン生産6,000万台を達成した。

平成6年（1994年）には盛岡事業所、本社地区、横須賀事業所で、平成10年（1998年）には広島事業所で品質保証システムの国際規格ISO-9000の認証を取得。平成13年（2001年）には横須賀事業所で環境マネジメントシステムの国際規格ISO-14000の認証を取得している。



盛岡事業所の管理部門



乗用管理機「共立:RVHC650」



野菜畑で農薬の散布作業中



海外でのパワーブロウを用いての清掃作業風景

★注力する事業分野★

世界で最も厳しい米国排出ガス規制をクリアした自社開発2ストロークエンジンなど、主力の小型エ



ブレーキ機能付き刈払機「共立:SRE2720UT-SB」



軽量チェーンソー「新ダイワ:E2025TS」



可搬形マルチ発電装置「新ダイワ:DGM1000シリーズ」

エンジンを搭載する手持ち屋外作業機械では、排出ガスや騒音、振動の低減を追求した環境配慮型製品を開発、生産していく。特に、昨年発売した本体質量2.3kgの軽量チェーンソーや世界で最初に開発した混合4ストロークエンジン（Hybrid 4）を搭載した各種製品などを積極的に販売していく。

農業用管理機械では、農薬を最適に散布できる自動制御農薬散布装置を搭載した大型の各種スプレーヤを始め、来年度に向けて新製品を投入するスピードスプレーヤなどを販売していく。また、人口増加が著しいアジア新興国で食糧増産に貢献するため、タイを拠点とした開発・販売体制の構築にもスタートした。

一般産業用機械では、高度成長期に整備された国内の橋梁、トンネル、上下水道など多くは更新時期を迎えるという。更新工事向けに、世界初の三相・单相3線式同時出力を実現したマルチジェネレータや、溶接機、投光機などを販売していく。